

事例報告

甲府市のまちづくり

甲府市 宮島雅展市長

1 はじめに

宮島です。先ほど、あいさつの中で知事さんが城主だという話が出ました。そうすると私は町奉行ですかね。町奉行は治安維持だからもっと他のものかもしれませんが、今、県と市はいろいろ協力をし合って大きく物事を進め、考えています。例えば甲府駅北口はあのような形で完成を見つつあります。南口の場合は県の修景計画と我々のまちづくりを融合させるといふか、同じテーブルで一生懸命話し合いをして、南口も北口のように変えていくということで進んでいます。

甲府市の新庁舎の建設事業ですが、県でも今、防災新館を建てており、私どもの新庁舎と一緒に進んでいます。県防災新館は来年（平成25年）秋口の完成になりますが、市庁舎は来年3月半ばごろに竣工し、引き渡しを受け、4月に引っ越しをして、5月の連休明けから執務が始まります。この新庁舎が単に行政関係の用事のために市民の皆さんにお見えになってもらうだけではなく、いろいろな考え方に立って造っており、周辺の街づくりに大きく関係してきます。その視点から説明をさせていただきます。

先ほどふれた県防災新館にしても、ヘリポートをつくり、防災対策課が入り、県警が入り、また県教育委員会が入りますが、その中に行政だけではなく、ジュエリーミュージアムというものをつくって、甲府と周辺の街の主要な地場産業である宝飾関係の展示スペースとする予定であり、多くの人たちが行政と関係なく集まるようになっていきます。甲府の新市役所もそういった面が多々あるので、ご説明を申し上げたいと思います。

2 整備の経過

これまでの庁舎は5階建てで、4つの建物に分散されていました。1号館、2号館、3号館、4号館とあり、1号館の玄関西側から入ると、赤、青、黄のラインが床に引いてあり、そのラインを伝っていくと2号館、3号館、4号館、5号館に行くようになっていきます。ある時、あるお年寄りがそのラインの上を歩いているのを見て、細いラインだったので、もう少し太いラインなら良かったなと思うような、そんな役所でした。県庁所在地の市役所は随分見てきましたが、ああいうのは甲府が初めてです。新庁舎は10階建てです。古名屋ホテルの方向から見た完成予想図（資料P1）がありますが、ブドウ棚をイメージした棚みたいなものがあります。その上には太陽光の発電パネルが乗っています。

新庁舎整備の経過（資料 P2）ですが、平成 20 年 5 月の基本構想策定から鉄骨建方開始までを整理してあります。鉄骨建方は今年(平成 24 年)6月に始まりました。昨年(平成 23 年)5月に新庁舎建設着工ということで、土台を造っていました。土台というとまちづくりとは直接関係ありませんが、かいつまんで申し上げると、太くて長い電信柱のようなものをどんどん打ち込むのですが、今はその杭を現場で造るのです。一番太い杭は 2.5m あり、一番長くて 27m と言っていました。一番細いのが 1 m くらいで長さは短いもので 10m。大きさが違うものが、105 本造ってあるのです。だからそれを造るために結構時間がかかりました。建方は今年の 6 月に開始され、あとは刻んであるものを現場に持ってきて、それを組み立てるだけです。早くできました。今はもう随分上の方までできました。

建設の前、平成 19 年に市長選があり、18 年の秋口に今どきで言うマニフェストの中に新庁舎の建設を入れ、皆さんに説明を何回もして「ぜひ建設をさせてください」とお願いしました。その理由はいろいろとあります。前の庁舎は昭和 36 年の竣工です。設計や施工管理は皆様方ご存知の東京タワーを造った山梨県出身の内藤多伸先生で、名古屋のテレビ塔や仙台のテレビ塔などを手掛け、塔博士と言われた有名な先生なのですが、もう 50 年近く経っているので、震度 6 強の地震がくると倒壊もしくは崩壊の恐れがあります。災害対策本部を置くべき市役所が潰れてしまったのでは非常に困ったことになる。もっとも今きたら困るから総合市民会館の中にそういう設備はあります。新庁舎を建てるということで自治会連合会の会合を 29 回ほど持っていた。市民の皆さんに政策と一緒に説明をして歩きました。多くの人から建てるべきであるというご意見をいただきました。市議会も一生懸命協力していただき、庁舎建設特別委員会も全部で 29 回の会合を持って、視察に行くなどの活動をしてくれました。

19 年に選挙が終わり、23 年 4 月に市議会議員の選挙が行われ、新しい議員さんが決まり、6 月に請負契約を議会にかけました。定数 32 人がいらっしゃるのですが、共産党を含めて 31 人の方が賛成をしてくださいました。1 人賛成でない方がいらっしゃいましたが、新人の方で今までの積み重ねの事情が分からなかったようでした。

資料 P1



資料 P2

新庁舎整備の経過	
平成20年5月	基本構想策定
平成21年3月	基本計画策定
平成22年3月	基本設計完了
5月	仮庁舎移転
10月	旧庁舎解体工事完了
平成23年1月	実施設計完了
5月	新庁舎建設着工
平成24年6月	鉄骨建方開始

3 コンセプト

では基本的な考え方はどこに置くか、ということです。3つの基本的な考え方をまとめました(資料 P3,4)。

おもてなし⇒市民が集いにぎわう空間⇒ワンストップ…とあります。ただ仕事をするだけの役所ではなくて、自分の私的な用事でも役所を使ったり、楽しんだりすることができるという要素も含めています。もちろん一番の基本的な考え方は、行政に関する仕事、例えば住民票を取るとか、納税をするとか、そういう手続きをして、用事が終わったらすぐに帰れるということですが、それに付け加えているものが結構あるということです。

例えば市民プラザ、市民活動室という空間があります(資料 P5)。これは西側から入ったところなのですが、結構広いスペースがあり、例えばフリーマーケットを開くことなどに使えるのです。ここをもう少し行くと総合案内所があります。

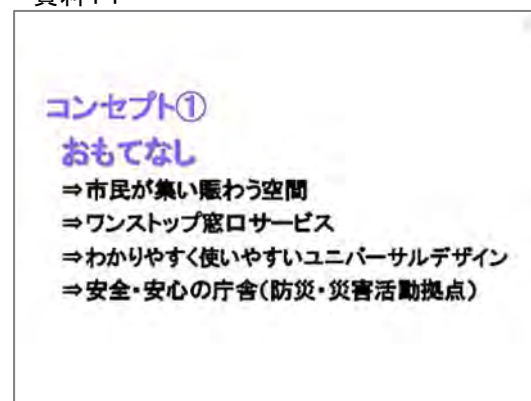
窓口業務は2階と3階ですることになっています(資料 P6)。先ほどの話は1階です。1階が駐車場になっていて、閉庁しているときは市民に開放することになっているので、そこで行事ができるようになっていくわけです。だから例えば何かの展示会をするとか…カラオケ大会ができるかは分かりませんが…屋根付きで、体育館を複数合わせた空間があります。そのイスは、後で詳しく説明しますが、真ん中が担架になるようになっている特殊なイスで、木で造ってあります。

コンセプトの2つ目に「環境配慮型庁舎」とありますが、先ほど載せる場所を紹介した棚の上の太陽光パネルは 300kw の発電ができます。そして屋上緑化。それから地中熱。あそこの地下の水の温度は 15 度で一定しています。だからその水の持っているカロリーを、夏は冷房に使い、冬は

資料 P3



資料 P4



資料 P5



資料 P6



暖房に使うことになっています。環境に優しく使い勝手を良くしてあるということです。

コンセプト3番目の「甲府らしさ」として、豊富な市有林材を活用しています。「甲府の庁舎としてのシンボル」としてパネルルーパーのブドウ棚がありますが、これが本当に甲府らしさかと言われるとちょっと迷う点もあります。しかし甲府でしかできないことではないかと思います。豊富な市有林材の活用というのは、甲府の北の方に金桜神社という由緒ある神社がありまして、日本三大修験道の道場の一つですが、あそこも神社有林をたくさん持っています。甲府市はその上に金峰山のふもとまで2600haの市有林を持っています。その市有林を切って使うということなのです。

この写真(資料P10)は、私が市有林から切り出した木材を見ているのですが、一番右はミズナラです。太いですよ。一番太かったものが直径117cm、年輪が300年です。左側は天然のカラマツです。これは200年。そしてブナは150年です。これらの市有林木材を切り出し、庁舎の中に使います。県庁で知事さんの第一応接室の床板について、「天然のカラマツですか?」と聞いたら、県庁の職員が「いや、人工ですよ。今、人工で植えたものも大きくなりましたからね。天然のカラマツなんてとても使えません」と言っていました。謙遜して言ったのかもしれませんが、そういうことのようにです。とてもきれいな床板でした。そういうものを50本運び出したのです。

何でそんなものを使うのかという話ですが、市有林を持っていてしかも大きな広葉樹を持っている市はあまりありません。北杜市の白倉政司市長と話をした時に「北杜にはそういう木があるのだから、大きなものがあるのでしょうか」と聞いたら、「ヒノキや杉の針葉樹はあるけれど広葉樹はあんまりないね」なんておっしゃっていました。天然材は受付カウンターなどに使います。7cmの板にして、福島の本松というところで乾かしています。人工乾燥しているのですが、持ってきて使えるように切ります。大雑把に整えたものを乾燥しているわけで、そろそろ現場のメーターに合わせて製品に仕上げる時期が来ています。

市有林の使用は2つの目的があります。そういう市有林が使えるということを皆に知ってもらおうということ。それには、市有林材を使って木の温かみのある役所にしたいということも含まれています。そして、このように市有林材が使えるのは、山を守ってきてくれた方々がいて、初めてそういうふうになるんだということを我々が認識し、そういうものを守っていく思想を次の世代に伝えたいという意味も含んでいます。

余談になりますが、この前、植林をしました。市民の皆さん390人ほどに参加していただき、ミズナラを黒平の地に植えました。900本植えました。中央森林組合の組合長に手伝ってもらいながらやりました。そこで私は知識がないので「組合長さん、いいよね。300

資料 P10



年経ってこれが皆1mもの大木になれば今に台に使われるでしょう」と話をしたら、「いや、それは市長さん、あまいよ。そんなにはならないよ」と、理由を説明してくれました。30cmか40cmで太さが鉛筆くらいのを900本植えたのですが、そのくらいの時は、鹿がまるごと食べてしまうのだそうです。もう少し大きくなると今度は皮を食べる。そうになると枯れてしまうのです。この前、知事さんが話していましたが、4,000頭くらいいればいい鹿が、3万頭以上山梨県にいるそうです。そういう鹿が皮まで食べてしまう。

もう少し大きくなると葉が出て、枝が茂るから雪の害で枝が折れてしまう。枝の真ん中あたりから折れるのであればいいのですが、枝の付け根のところから折れるとウロ（空洞）になってダメになる。もっと大きくなると今度は背が高くなるから、雷の被害があるのだそうです。そういうものを全部抜け出てきた木がこれになるのだそうです。じゃあ、900本も植えてどのくらいが大きくなるのですか、と聞いたら、10本大きくなればいーだろうということでした。確率の悪い話ですね。私はそれから人に、300年のカウンターにさわってくださいね、それで頑張って120年くらい生きて、3カ月ほど病んで向こうへ行ってくれたら一番いい、と話しています。あんまり長く寝ていると自分も看病する人もきついかから、なんて冗談を言っています。皆さんさわりに来てくれると思いますよ。

木材はヘリコプターで搬出しています（資料 P11）。総計 50 本ほど運び出しました。林道があるところの木はもう前の人が使ってしまったているのです。昭和 36 年に庁舎を建てたときに木材を切って売ったのです。そのときはまだ使える金の余裕がなかったのです。それを金に換えることだけを考えたのでしょう。だから切り出しやすいところは皆持って行ってしまって、切り出しにくい険しいところにしか生えてないから、ヘリコプターを使うより他に手はありません。また林道を造るというのは、維持管理の点でも良い面があるのですが、中には不心得の人がいて、山火事が起こる可能性は高くなります。その点を相談したら、ヘリコプターでやりましょうということになりました。

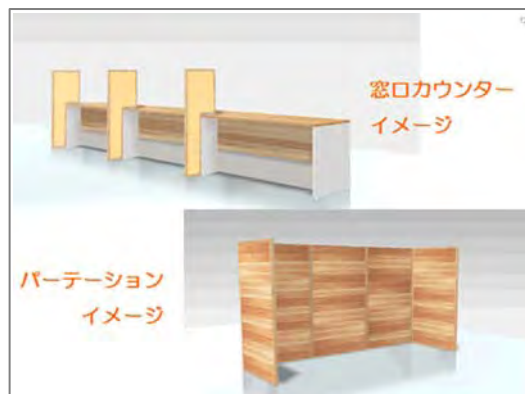
4 市民に開放

作成するパーテーション（資料 P12）は、ワンストップサービスといって、座れば諸証明を取るとか、グラウンドの申し込みとかそういうこと

資料 P11



資料 P12



が1か所でできるようにするつもりですので、カウンターが区切られるのです。そういうところに使います。

入り口の1階エントランスホール（資料 P13）には、美術大学の先生にお願いしたオブジェが作ってあります。今、市民プラザでやっているように「春の作品展」とか、そのような感じにしたい。総合案内所がこの向こうにあって、何か「こういうことで来ました」と問い合わせをすると、「じゃああそこのエスカレータを使って」とか「こっちのエレベーターを使って2階へ行ってください」とか「3階へ行ってください」というような案内が行われます。

先ほど話に出た窓口のところのベンチ（資料 P14）ですが、これは間伐材を使って作ってあります。市の職員が頑張って工夫して特許を取りました。真ん中の座るところが外せるのです。逆さまに使うのですが、片手が外れて、それがまさかのときに担架になって運べるのです。それが特許です。新庁舎内には10台設置をする予定です。これから宣伝をして、他の公共施設に使ってもらえないかと思っていますが、値段との関係もあるので上手くいくかどうか。

先ほど、建方が始まっていると申し上げましたが、現状（資料 P15）はこんな感じで、右側の白いところが展望スペースになっています。これは南側から撮った図です。左側は少し黒いですがそこも総ガラス張りになります。10階は展望スペースになっている部分があり、南アルプスから甲斐駒ヶ岳、南は富士山など、盆地の景色が眺められるようになって、閉庁時にも開放するのでそんなことでもこの役所が使えるということになっています。これは西側から撮ったところ（資料 P16）。

もう一度完成イメージ（資料 P1）を見ると、市民広場が造ってあります。ここに商工会議所の

資料 P13



資料 P14



資料 P15



資料 P16



皆さんから寄付をいただいた2m×4mのテレビジョン画面が設置してあります。そこでヴァンフォーレ甲府が対外試合をした時に中継をして、皆で「おい！あんまり負けるじゃねえぞ」といった応援ができたらいいなと思っています。また、中には市民だけが使う会議室が2つあり、市議会の委員会で使っている会議室も空いているときは市民に開放します。市民の集まり、サークルの集まりをそこでできるようにします。

そういうことで、前段申し上げたように、行政だけの用事で来るということではなく、皆が自分の趣味とか、孫の作品が展示してあるとか、書道作品が飾ってあるようなということでも来てもらえるようにしてあるのが、今までの役所とはちょっと違ったところです。来てくださる方々が、役所の用事が終わったらちょっと足を延ばして中心市街地にも行ってくれるということも念頭においています。それにしても中心市街地、なんとか努力をして、昔の賑わいとまではいかなくても、頑張っ、人が来てくださるようにしようと、そんなふうに思っています。

これから、知事さんいらっしゃいますが、県の皆さんとも相談しながら、例えば先ほどの南口の修景計画、それからお城の前の甲府税務署も移転をして合同庁舎に入りましたので、あそこも県と市で相談をしながらどういうふうに使っていくのか、甲府城とともに一番市民の役に立つかという観点で、今後、考えていかなければなりません。お城フロントという計画もあって、東京電力の西側辺りから、あるいは今の県警の分室などがあるところを取ってしまって、あるいは28年には県民会館を取り壊してフロントとしての整備をしていく。そういうものが完成をしてくと同時に、街の中心も人通りが盛んになって、もう少し皆で楽しめる街づくりにしていきたい、そんなふうに思っています。そのような市となるように市役所を造りました。完成後にはどうぞお越しいただけますようお願い申し上げます。ありがとうございます。